



一人でも多くの命を助けるために

通常、傷病者は駆けつけた救急隊により病院に運ばれて医療にかかることができます。東京DMATは、災害現場に医療側が出向き、一刻も早い医療処置を開始することで都民の生命を守るために活動しています。



・東京DMAT創設の背景

阪神大震災においては、救出作業と平行して点滴等を実施すれば、防ぎえた死（Preventable Death）があったと指摘され、また、震災で多くの医療機関が機能を失い、「医療の空白」が生まれたという教訓を踏まえ、一人でも多くの負傷者を救うため、東京都では消防機関との連携を含めた専門的なトレーニングを受けた医師や看護師が医療器材を携えて現場に急行し、その場で救命処置等を行う災害医療派遣チーム「東京DMAT」を創設しました。

・東京DMATの編成

東京DMATは、1チーム医師1名、看護師等2名（必要に応じて事務員1名が加わる。）で構成されます。



（阪神・淡路大震災）



1. 東京DMAT

DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、大震災等の自然災害や、交通事故等の災害現場に派遣される医療チームのことです。東京都は、平成16年（2004年）8月、日本で初めてDMATを設立しました。